

令和5年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立 栄和小学校)

学校番号 029

【様式】

目指す学校像	すべての子どもたちの居場所となる学校 ～教職員、保護者、地域が連携・協力して子どもたちを支える学校～
--------	--

重点目標	1 学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善による個別最適化、そして探究化による資質・能力の育成 2 安心・安全な学校に向けた教育支援・相談体制と学校行事の充実 3 学校・家庭・地域の組織的・継続的な連携・協働体制による社会に開かれた教育課程の実現 4 一人ひとりが力を発揮し、だれもが居心地の良い (Well-Being) 学校をつくる教職員研修の充実
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 目 標		年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
年 度 目 標		年 度 評 価		年 度 評 価		実施日令和6年2月20日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語・算数ともにほぼ全国・県平均値を下回る結果となった。 ○国語・算数は「好きか」という設問に対し肯定的な回答が少ない。 ○国語、算数ともに無回答率が高い。 (課題) ○アンケートで学習に対して肯定的な回答をする児童が多いが、主体的な学びに係る回答は低めなことから、主体的に取り組むためのさらなる改善が課題である。 ○無回答率が高いことから根気強く問題に取り組む姿勢を身につけさせることが必要となる、また問題文の内容をよく理解する「読解力」が求められる。	・学びの自立化・探究化に向けた情報端末の活用、授業改善 ・学校課題研修の充実や高学年教科担任制の効果的な実施	①ICTを有効に活用し、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、指導の個別化、学びの個別化を行う。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、データの利活用等の中で、自ら学習状況を把握できるようにする。	①学校評価で該当項目に肯定的な回答を増やす。 ②児童が自己採点の結果を基に、自らの学習状況をつかみ、目標を立て達成に向けて行動できるようになったか。	①学校評価の「授業がわかりやすい」項目では、肯定的な回答 85%。「学びの指標」アンケートの「意欲の高まる、わくわくする授業をしてくれる」、「PCやプロジェクタを使って、学習の内容をわかりやすく示してくれる」のどちらも回答は3.4p (4p中)。 ②学校評価の「自分から進んで学習に取り組んでいるか」の児童の肯定的な回答が 85%。10月に「家庭学習検討委員会」を開催し、保護者と教員で児童の実態を共有しながら意見交換を行った。	B ①授業でのICT機器の活用率はだいぶ高まっている。教員全体のスキルを上げて、ICT機器を効果的に学習に取り入れられるよう、引き続き研修を推進していく。 ②タブレットPCを持ち帰る機会も増えているが、家庭学習での活用に関しては個人差が大きい。「家庭学習検討委員会」を次年度も開催し、さらに自主的な学習が促進されるよう家庭と連携方法を図っていく。	学校運営協議会からの意見・要望・評価等 「家庭学習検討委員会」で保護者と先生方で意見交換をしたことは有意義だったが、もっと多くの保護者を巻き込んでいきたい。 家庭の形や考え方も多様化しているが、連携の方法について積極的に取り組んでいることは評価できる。 タブレットPCの活用率が推進されていることは評価できるが、真のICT機器の活用には不十分と思われる。今後も研究を進めてほしい。 本校の児童の実態をしっかりとりとえ、危機感を持って学力向上の具体的な方策をたてていくべき。
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において「学校に行くのが楽しい」の質問項目で肯定的な回答をした児童は、全国・県平均を上回った。 ○教職員による安全点検を実施して、危険箇所等は早期発見できている。 ○コロナ禍で行事や遊びに制限がかかり、体力テストの握力以外が全国・県平均を下回る結果となりケガの増加が見られる。(一人で転倒してしまう、転んだ時に手につけない等) (課題) ○緊急度2以上に該当する児童が、複数いる状態であるため、積極的な生徒指導と、教育相談の早期対応が必要である。 ○体力低下によるケガの増加がみられるため、休み時間の外遊びの確保、体育活動時の運動量の確保、ケガ予防の児童の意識向上を図る必要がある。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた行内体制の充実 ・安全点検の組織的な対応と適切な予算執行	①生徒指導主任を中心に、月1回のいじめのアンケートや心と生活のアンケート等を行い、児童のサインに気づき、早期対応ができる体制づくりを行う。 ②できる行事を見直し、児童が体験的な活動を通して、自尊感情を高める。	①教職員は、組織的に報・連・相・見届けを実施することで、即日対応する。 ②通常の教育活動に戻すがコロナ禍で得た工夫や改善を取り入れた行事を行っていく。	①アンケートで設問3に該当した児童は、生徒指導主任を中心に、組織的に即日対応を行った。本人・保護者へ丁寧な対応を行い、必要に応じて専門機関と相談したり、繋がりを作ったりした。 ②校内音楽会を体育館で実施した。入替制にして、保護者も3人まで参観できるようにした。特活では、児童の縦割りグループでの活動を年間通じて行った。	B ①指導者を依頼した特別支援教育研修を行った。次年度も、担任としての支援の方法を学び、保護者や各機関と連携しながら早期対応を組織的に行っていく。 ②コロナ後の行事の実施方法を見直してきたが、地域と連携した行事等についても、SSN会議や学校運営協議会の中で、再検討していく。	学校の施設の老朽化の問題がある。けがの防止のため現在のアスファルトの敷き直しについて市に働きかけてほしい。 ケガマップによって児童自身で注意する場所を知ることができるとはよい。 教職員による防犯訓練の実施は評価できる。PTAでの関わりも検討したい。 体力向上について様々な取組を行っていることは評価できる。 下校時のボランティアをしてくれそうな方に声をかけていきたい。
3	<現状> ○昨年度より学校運営協議会を年2回開催し、「栄和小の児童につけさせたい力」について熟議をした。 ○学校運営協議会とスクールサポートネットワークでの役割の確認と確認した。 (課題) ○今年度は昨年度の熟議の中で共有した「つけさせたい力」を地域・家庭等にも広め具体的に実施できるとよい。 ○学校公開や参観等児童の様子を家庭や地域の方々に見ていただく機会を多く設けることが必要である。	・目指す児童像を地域・家庭に共有するための教育活動の積極的な公開 ・地域とともにある学校づくりと地域づくりの推進	①学校運営協議会を年3回実施して、熟議を重ね、その具体策を実現に向けて計画実施する。 ②授業参観を家庭、地域に公開することで積極的な情報発信を行っていく。	①学校運営協議会の熟議で出た具体策について実現できたか。 ②学校評価で該当項目の質問について肯定的な回答を向上させる。	①学校運営協議会を3回開催し、熟議では「児童の自尊感情の育成」「読書活動の推進」「家庭学習の見直し」に重点を置いて取組をすすめることを確認した。 ②学校評価「教育活動・学校情報の公開」の項目で87%肯定的な回答が得られた。運動会では、参観者の人数制限をなくした。校内音楽会でも、各家庭3人まで参観できるようにした。	B ①読書活動では、図書委員・司書を中心に読書キャンペーンを実施し、本の貸し出し数も増加したが、家庭での読書を習慣化させる取り組みをさらに考えていく。 ②まごころ相談日の他に、個人面談を実施する。学校のホームページもさらに更新頻度を上げ、児童の活動の様子の写真の公開や保護者への各種啓発活動を活性化させていく。	朝の旗振り当番について、少しずつ協力の体制を固められるといい。 地域の人たちと児童の交流を通して、児童の思いや意見を聞けたらいい。 縦割りのグループでの異世代交流は今後も積極的に行ってほしい。 地域との協働を考えたPTA活動を考えていく。 読書の習慣化や児童の更衣スペースの問題についてPTAも協力していきたい。 学校運営協議会委員の人選の再検討が必要。
4	<現状> ○研修主任とエバンジェリストを中心に、ICTを活用した授業実践は全教職員が実践している。 ○学校課題研修で国語科、算数科の研究を通して教職員の資質向上を図ることができた。 ○ICTの活用については教職員が思っている以上に児童は評価が少ない (課題) ○ICTを有効に活用し、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、指導の資質向上が求められる。	・一人ひとりが力を発揮できるWell-Beingな環境づくり	①始業時間を早め、放課後の時間を確保する等の、適切な業務改善をすることで、教職員が本来すべき業務に時間が使えるようにする。 ②毎週木曜日に研修の時間を設け、教職員の資質向上となる研修を行い、研修内容に応じた指導者を招聘する。 ③ICT支援員の活用や、エバンジェリストを中心に、主体的に学べるICT活用事例について紹介する。データの利活用や、ICT活用で個別最適化学びの実現を研修する。(年3回)	①授業準備等の時間が確保できるよう業務改善をはかり、教職員がゆとりをもつことができたか。 ②毎週木曜日の研修の時間を確保するとともに、国語・算数の指導者をそれぞれ招聘し、講演会や研究授業等を適切に実施したか。年2回 ③学校課題研修の中で、ICT活用事例について研修を深められたか。	①日課表の工夫により、児童の下校時間を早めたり、会議や学級事務の時間を確保したりできるようにした。 ②指導者を招聘し、講演会や研究授業、指導案検討会の機会をできるだけ設けた。 ③リーディングDXスクール事業の研究を先行している学校に依頼し、個別最適化学びについてのヒントになる実践を紹介してもらい、各教員の自己研修にもつなげられた。	B ①スクールダッシュボードの導入と日課表の兼ね合いをみて、再検討していく。 ②各教員の研修意欲を高めることを大切にし、児童の主体的な学びに焦点を当てた学校課題研修を推進していくとともに、教育相談・特別支援教育関係、ICT関係の研修もより深化させていく。 ③データの利活用について、研修を深めるとともに、家庭におけるICT活用についても幅を広げていく。	今後のスクールダッシュボードの運用について関心がある。 教員間のデジタルギャップが心配。 学校は時間が限られている中で、研修もたくさん行っていてよくやっている。 教職員の処分のニュースが多いので、現状でも行っていると思うが、教職員への指導をしっかりと実施してほしい。